

『社会厚生評価と不平等測定』
釜賀浩平 元兼務研究員

要旨

本書では社会厚生の評価方法と不平等の測り方の関連に焦点を当てながら、功利主義と平等主義の折衷となる社会厚生評価方法、および、そうした社会厚生評価に基づいて導出される不平等測度について解説を与えるとともに、新たな理論的知見も与える。

本書は3つの章で構成され、第1章では厚生主義と呼ばれるアプローチに基づいて、人々の間での効用配分の優劣を評価する社会厚生順序について分析する。分析の手法は公理的な分析と呼ばれるもので、評価方法が満たすべきものと考えられる性質（これは公理と総称される）をいくつか用いて、それらの諸性質（諸公理）を全て満たす社会厚生順序を特定する。そうした特定を行うことで、当該の社会厚生順序に対して諸公理による規範的基礎づけが与えられる。第1章では、平等主義を表す社会厚生順序としてマキシミンおよびレキシミン社会厚生順序を考え、それらの社会厚生順序と功利主義との折衷となる社会厚生順序について分析を行う。そうした折衷を模索する動機は、マキシミンおよびレキシミン社会厚生順序と功利主義社会厚生順序が示す分配上の衡平性が極めて対照的に異なるところにある。折衷となる社会厚生順序の分析は、Kamaga (2018)と Bossert and Kamaga (2020)の研究に基づくが、それらの研究では明らかにされていない新たな知見も提供する。特に、本書の目的である社会厚生評価と不平等測定の関係性を明らかにする上で必要となる社会厚生順序のクラスに関して新たな知見を提供する。

第2章では、第1章で提示された諸定理について、証明を可能な限り詳細に与える。証明を与えるにあたり、二重確率行列を用いたシューア凹性と呼ばれる公理など、次章で分析する不平等測定で必要となる知見についての解説も与える。第2章で与えられる諸定理の証明と次章で与えられる不平等測定に関する諸定理の証明を照らし合わせることで、社会厚生評価と不平等測定の関連がより明確となるが、証明を理解することは簡単な作業であるとは決して言い難いものであり、当該分野を専門的に勉強したい読者を除いては証明を読まずに次章に進んでも、大枠の理解を得る上では差し支えない。

第3章では、社会厚生評価から導出される不平等測度について解説を与える。社会厚生評価に基礎づけを持つ規範的不平等測度と呼ばれるものは、ジニ係数をはじめとして、多くのものが存在する。社会厚生評価から不平等測度を導出する方法についての解説とともに、導出される個々の規範的不平等測度についても可能な限り広範に解説を与える。そうした予備的解説の後に、第1章で考察したマキシミン社会厚生順序と功利主義社会厚生順序の折衷となる社会厚生評価から導出される不平等測度について公理的な分析を行う。折衷となる社会厚生評価から導出される不平等測度がマキシミン不平等指数と呼ばれる不平等測度と不平等の大小比較に関しては一致した評価を下すことがまず明らかにされ、この結果を足がかりとして、不平等の序数的評価である不平等順序の形式でマキシミン不平等順序の公理的な分析を行う。この分析は Bossert, D'Ambrosio and Kamaga (2021)に基づくものであるが、そこで与えられる結果は、マキシミン社会厚生順序と功利主義社会厚生順序の折衷となる社会厚生評価から導出される不平等測度の規範的基礎づけを不平等の序数的評価に焦点を当てて与えるものである。第1章と第3章の考察を総合することで社会厚生評価と不平等測定の関連が明らかとなる。

以上